

要請番号 (JL55123B26)

募集終了



| 国名 | 職種コード 職種 | 年齢制限 | 活動形態 | 区分 | 派遣期間 | 派遣隊次 |
|------|-----------|------|------|----|------|---------------------------|
| ザンビア | C108 土壌肥料 | | 個別 | 新規 | 2年 | ・2024/2・2024/3・ 2025/1 |

【配属機関概要】

1) 受入省庁名 (日本語)

教育省

2) 配属機関名 (日本語)

デビッド・リビングストーン教員養成校

3) 任地 (南部州リビングストーン市) JICA事務所の所在地 (ルサカ州ルサカ市)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (バスで約 8.0 時間)

4) 配属機関の規模・事業内容

1960年に設立された同教員養成校は、環境、ビジネス、経理・金融、農業、エンジニアリング、数学、天然資源、ICTの8つの学科を有し、高校課程を卒業した学生、中途退学した学生、就業後に学び直しを志す学生などを対象に初・中等教育の教員資格取得の機会を提供しており、遠方の学生には遠隔教育も提供している。溶接やブロック作り、木工(大工)作業などの職業訓練部門も有し、93名の教員が約470名の学生を指導している。年間予算は約7億円。過去に2名の理数科教師のJICA海外協力隊が活動し、良好な関係を築いた。

【要請概要】

1) 要請理由・背景

農業科では、同科の全学生が1年次に学ぶ科目の一つとして土壌化学の授業がある。授業では、風化と薬剤による土壌の構造、構成、性質、分類などの基礎知識から、就農に必要な化学薬品による影響と有機栽培との対比、土壌と水資源の保全とコントロール、灌漑設備や水害予防、砂防などの知識と実地に必要な技術を指導する。特に雨季における洪水被害が多い南部州において、これらの知識は就農に当たり重要な学びとなる。安定した農業経営ができる学生を育成するため、日本の土壌化学の知見から学ぶ必要があることよりJICA海外協力隊が要請された。同科の教員は40名、学生は123名である。

2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

- 土壌区分や性質、養分に係る講義と実習
- 化学肥料と土壌の耐性及び有機栽培におけるメリット、デメリットに係る講義と実習
- 土壌と水管理、灌漑に係る講義と実習
- 隊員の得意な分野において課外活動への参加

3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

特になし

4) 配属先同僚及び活動対象者

配属先同僚:農業科教員40名(40~60代、男女)

活動対象者:農業科教員40名(40~60代、男女)

同科生徒123名(10~30代、男女)

5) 活動使用言語

英語

6) 生活使用言語

英語

7) 選考指定言語

英語(レベル:B)

【資格条件等】

[免許]：(高等学校教諭(農業))

[性別]：() 備考：

[学歴]：(専門学校卒) 農学系 備考：農業専科の学生に指導するため

[経験]：(実務経験) 5年以上 備考：実技指導を行うため

[汎用経験]：

- ・農業実習180時間以上

[参考情報]：

- ・農作物栽培の実務経験があると良い

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]：(サバナ気候) 気温：(5~35℃位)

[電気]：(安定)

[通信]：(インターネット可 電話可)

[水道]：(安定)

【特記事項】

赴任後、現地語学訓練(トンガ語)を予定している。